

武士の政権の成立

1 単元のねらい

武士が台頭し、武家政権が成立した時代の流れを理解するとともに、鎌倉時代には、土地を仲介とした御家人との主従関係に基づいた将軍による統治が始まったことが分かることができる。

鎌倉時代の武士の生活や民衆の動きに関心をもつとともに、鎌倉時代の文化と仏教に見られる新しい動きを理解し、人々の生活との関連を考えることができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴族の世界から武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったことを理解している。 ・ 武士が台頭し、武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化や鎌倉仏教に関する様々な資料を活用し、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が全国に広まり、武家社会が発展した時代の流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化などに着目して多面的・多角的に考察したり、表現したりしている。 ・ 鎌倉時代に新しい文化と仏教が生まれたことを、武士や民衆の動きと関連させて多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士が台頭し武家政権が成立したことや、鎌倉時代の武士や民衆の動きに関する課題を主体的に追究している。 ・ 鎌倉時代の新しい文化と仏教に対する関心を高め、現在の生活との結び付きについて主体的に調べている。

●学習改善につながる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5
知識・技能	●	●	○	●	●
思考・判断・表現			○		
主体的に学習に取り組む態度	●				●

3 単元構造図 (全5時間) ☆基礎的・基本的な知識, 概念や技能

単元名 武士の政権の成立	単元学習前の生徒の認識 古代の政府は大陸の制度や文化を取り入れながら律令国家を創り上げ、天皇・貴族を中心とした政治を行ってきた。そして、藤原道長・頼道の時代の摂関政治で絶頂期を迎える。その一方、地方では荘園が広がり、私利私欲に満ちた国司の政治により混乱が生じていた。そして、社会の混乱による人々の不安も増し、極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰も起こった。この社会の混乱はどのように解決されるのだろうか。
-------------------------------	--

第1時 武士の成長 【●主体的に学習に取り組む態度 ○知識・技能】

どのようにして武士は、力を伸ばしていったのだろうか。

☆武士団 ☆源氏・平氏 ☆平将門・藤原純友の反乱

武士というのは自分の土地を守るために誕生し、天皇や貴族の護衛をしながら戦いによって勢力を伸ばしていった。特に勢力を伸ばしていた武士団である源氏や平氏は朝廷に対する反乱を鎮めることで朝廷から信頼を勝ち得ていったことが分かった。

第2時 武士の政権の成立

【●知識・技能 ○思考・判断・表現】

平氏はどのように政治の実権をにぎったのだろうか。

☆保元の乱 ☆平治の乱 ☆平清盛

朝廷内で保元の乱や平治の乱などの対立が起こった。この二つの争いが武士同士の戦いによって決着したことから、武士が政治の上で大きな力を持つようになった。戦いに勝利した平清盛は武士として初めて太政大臣になり、娘を天皇のきさきにするこゝで結びつきを深め、日本初の武士の政権を成立させた。

武士の支配はどのように広まり、武家政権はどのように発展したのだろうか。

第3時 鎌倉幕府の成立と執権政治

【○思考・判断・表現】

源頼朝は、どのような政治をしようとしたのだろうか

☆源平の争乱 ☆封建制度 ☆鉢木の話 ☆承久の乱

源頼朝は、それまでの貴族の政治とは全く違う新しい政治を始めた。それは「御恩と奉公」という、土地のやり取りにおける主従関係で、将軍は御家人のため、御家人は将軍のためという強い結びつきが生まれた。その結びつきにより後鳥羽上皇が起こした承久の乱も平定し、幕府の支配力は全国に広まった。

第4時 武士と民衆の生活

【●知識・技能】

御家人は、どのような生活をしていただろう。

☆武士の館 ☆笠懸 ☆犬追物 ☆御成敗式目 ☆定期市 ☆地頭を訴えた農民たち

御家人は、常に笠懸や流鏑馬など、馬や武芸によって心身を鍛え、「いざ鎌倉」の時は、即座にかけつけ、奉公ができる準備を整えている。また、二毛作が開始されたり、鉄製農具の使用や肥料の使用が始まったりしたことによって農業生産が高まった。その結果、民衆の力は徐々に強くなり、団結して行動できるようになったことが分かった。

第5時 単元のまとめ 鎌倉時代の文化と宗教

【●知識・技能 ●主体的に学習に取り組む態度】

鎌倉時代の宗教や文化には、どのような特色があるのだろうか。

武士の心のより所として広まった新しい仏教の教えは、当時、争いや自然災害、飢饉に苦しむ多くの人々の心の支えとなった。鎌倉時代には、武士や民衆の力が伸びてきて、平安文化のような「華やかさ」ではなく「素朴だが力強い」文化が栄えた。武士の支配する世の中がどのように変化していくか見てみたい。

☆念仏・題目 ☆金剛力士像 ☆平家物語・琵琶法師 ☆鎌倉仏教の教え

単元学習後の生徒の認識

平安時代後期の社会の混乱は、自身の土地を守るという武士の誕生や院政による新しい政治を経て源平の戦いの時代をもたらした。一時的に栄華を誇った平氏を滅ぼして源頼朝が始めた新しい政治は、土地を基盤とした「御恩と奉公」の強い主従関係に基づくものだった。承久の乱を経て実権は北条氏に移っていたものの力強い幕府体制ができあがり、社会が安定して産業の発達や鎌倉文化の誕生がもたらされた。今後、北条氏による政治体制はどうなっていくのだろうか。

時	ねらい	学習活動	評価規準	◇資料 指導・援助
1 武士の成長	<p>平安時代の中ごろに登場した武士が勢力を広げた理由を追究することを通して、地方や都でおきた戦乱での武士の活躍や、土地の寄進や身辺警護による中央の貴族との関係を強化していたことに気付く、武力を背景に朝廷との関係を強化して武士は成長してきたことを理解することができる。</p> <p>★武士 ★武士団 ★源氏・平氏 ★平将門・藤原純友の反乱 ★奥州藤原氏</p>	<p>1 略年表から、平安時代の後、武士の世の中になっていることに気づき、疑問をもつ。 ・武士はもともと地方の屋敷を警備したり、天皇の護衛したりすることが役割で政治の主役ではなかった。</p> <p>どのように武士は、力を伸ばしていったのだろう。</p> <p>2 武士の成長について調べる。 ・武士はやがて武士団を形成し集団でまとまるようになった。 ・成長した武士団の中でも天皇の血を引く源氏と平氏の勢力が有力だった。 ・平将門や藤原純友らが武士団を率いて反乱を起こすが、源氏や平氏が反乱をおさえている。朝廷にとって頼りになる存在だった。</p> <p>4 本時の学習をまとめ、単元を貫く課題を設定する。 《単元を貫く課題》 武士の支配はどのように広まり、武家政権はどのように発展していったのだろう</p>	<p>政権の移り変わりに着目しながら、武士が登場し、成長していく様子を見ることで単元を貫く課題をもち、考えた課題に対して予想を立てている。</p> <p>知・技＝資料読み取りの様子 態度＝授業の様子</p>	<p>◇年表 ◇武士の成長</p> <p>◇武士のおこり ◇武士団 ◇源氏と平氏の系図 ◇荘園のしくみ</p> <p>略年表から武士が登場し、力をつける様子について自分の思いをもつことで、単元を貫く課題を設定できるようにする。</p>
		<p>武士というのは自分の土地を守るために誕生し、天皇や貴族の護衛をしながら戦いによって勢力を伸ばしていった。特に勢力を伸ばしていた武士団である源氏や平氏は朝廷に対する反乱を鎮めることで朝廷から信頼を勝ち得ていったことが分かった。</p>		
2 武士の政権の成立	<p>日本初の武士の政権が成立した頃の様子を調べる活動を通して、朝廷内の対立の決着に武士が関わっていたことに気づき、武士の政治上の力が大きくなったことを理解することができる。</p> <p>★上皇 ★院政 ★保元の乱 ★平治の乱 ★平清盛 ★源頼朝 ★源平の争乱</p>	<p>1 資料から武士の力が政治にも影響を与えていることに気づき、本時の課題を設定する。 平氏は、どのように政治の実権をにぎったのだろう。</p> <p>2 資料から課題に対する自分の考えをもつ。 ・院政を始めた上皇と天皇の間で政治の実権をめぐる争いが起きている。 ・源氏や平氏などの武士が争いの決着に関わっている。朝廷が武士の武力をあてにしている。 ・武士が関わったことで、政治に与える影響力も大きくなったのではないか。</p> <p>3 平氏はどのような政治をしたのか確認する。 ・清盛が太政大臣になっている。 ・天皇家と結びついている。摂関政治に似ている。 ・日宋貿易を行うことで財力を蓄えていった。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>平氏が日本で初めて武士の政権を成立させることができた理由について、武力や政治力の視点から追究し、その知識を身につけている。</p> <p>知・技＝資料の読み取りの様子</p>	<p>◇平氏の栄華 力をつけてきた武士が政治の中心になっていることに気付くことができるようにする。</p> <p>◇力を持った白河上皇 ◇保元の乱と平治の乱の対立関係 ◇皇室関係系図 ◇日宋貿易</p>
		<p>朝廷内で保元の乱や平治の乱などの対立が起こった。この二つの争いが武士同士の戦いによって決着したことから、武士が政治の上で大きな力を持つようになった。戦いに勝利した平清盛は武士として初めて太政大臣になり、娘を天皇のきさきにすることで結びつきを深め、日本初の武士の政権を成立させた。</p>		

<p>3 鎌倉幕府の成立と執権政治</p>	<p>源頼朝が今までの公家の政治とは違った独自の政治の仕組みと、「御恩と奉公」の関係に基づき武家政治を始め、承久の乱で幕府の支配力が一段と強まったことを理解することができる。</p> <p>★守護・地頭 ★鎌倉幕府 ★鎌倉時代 ★封建制度 ★御恩・奉公 ★御家人 ★執権 ★執権政治 ★承久の乱 ★六波羅探題 ★御成敗式目</p>	<p>1 頼朝がどのようにして平氏を倒したのか資料を使って確認し、本時の課題を設定する。</p> <p>源頼朝はどのような政治をしようとしたのだろう。</p> <p>2 資料から鎌倉幕府の仕組みの特徴について自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・律令政治の頃より仕組みが単純である。 ・守護や地頭で国ごと土地ごとに支配している。 ・将軍の下に執権という役職が置かれている。 <p>3 北条政子の訴えと封建制度の図から分かることを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将軍と御家人が土地のやり取りにおいて、直接関係を結んでいる。 ・北条政子の訴えに従う御家人が多い。 ・「御恩」と「奉公」の関係ができています。 <p>4 承久の乱の結果とその後の幕府の支配の地図から考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府は大軍で勝っている。 ・上皇に味方した貴族や武士の領地を取り上げ、味方した御家人に分け与えている。 ・西日本に新たに地頭が置かれ、幕府の支配力が広がっている。 <p>5 学習のまとめをする。</p>	<p>武士が台頭し、武家政権が成立して武士の支配がだいに全国に広がり、武家政権が発展していった時代の流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化などから多面的多角的に考察し、表現している。</p> <p>思考＝話し合いの様子 態度＝授業の様子</p>	<p>◇源平の争乱(P 69) ◇鎌倉幕府のしくみ ◇封建制度のしくみ ◇鉢木の話 鉢木の話の中で「奉公」にあたる部分と「御恩」にあたる部分を確認する。</p> <p>◇承久の乱</p>
<p>4 武士と民衆の生活</p>	<p>御家人に対する様々な資料から生活の様子を読み取る活動を通して、鎌倉時代の御家人は、常に戦いに備えて武芸の訓練に励んでいたことを理解することができる。民衆も力もち始めていることを理解することができる。</p> <p>★武士の館 ★笠懸 ★犬追物 ★定期市 ★二毛作 ★地頭を訴えた農民たち</p>	<p>1 「流鏑馬神事」のビデオを鑑賞し、本時の課題を設定する。</p> <p>御家人は、どのような生活をしていたのだろう。</p> <p>2 「武士の館」から分かることを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬や弓矢の武芸で鍛えている。 ・館の周囲に堀をめぐらせ、塀で囲んでいる。 <p>3 「笠懸」「犬追物」「流鏑馬」の絵と御成敗式目から御家人の生活を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一所懸命」という言葉のとおり、自分の土地を守るため、将軍に奉公するため日頃から準備をしている。 <p>4 「地頭をうったえた農民たち」から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農民は地頭と荘園領主の二重支配に苦しんでいる。 ・地頭の酷い行いを訴えるまでに成長している。 <p>5 学習のまとめをする。</p>	<p>絵や文書資料から御家人が日常的に「いざ鎌倉」に備えて武芸の訓練に取り組んでいることなどの生活の様子を読み取っている。</p> <p>知・技＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇「流鏑馬神事」のVTR ◇「武士の館」 ◇「笠懸」「犬追物」「流鏑馬」 ◇御成敗式目 御家人の領地が分割相続であることと、「奉公」とを結び付けて考える。</p> <p>◇「地頭をうったえた農民たち」</p>
<p>5 鎌倉時代の文化と宗教</p>	<p>鎌倉時代の宗教や建築、絵画、彫刻、文学作品などの分析の活動を通して、鎌倉時代の力強く、明快で、武士の気風をよく表現した文化であることを理解することができる。</p> <p>★運慶 ★金剛力士像 ★平家物語 ★新古今和歌集 ★鎌倉仏教 ★法然 浄土宗 ★親鸞 浄土真宗 ★日蓮 日蓮宗 ★栄西 道元 禅宗</p>	<p>1 念仏や題目の内容を聞き、鎌倉文化に関心をもち、本時の課題を設定する。</p> <p>鎌倉時代の宗教や文化には、どのような特色があるだろう。</p> <p>2 既習内容から予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族や天皇中心の華やかな文化だった国風文化に対して、武士が中心の鎌倉時代は文化でも武士らしいのではないか。 <p>3 「文化」「宗教」の資料から鎌倉時代の特徴について考えたことを交流する。</p> <p>[文化]・華やかさが無い・素朴な感じがする。 [宗教]・念仏や題目を唱えることが中心であるため簡単にできる・座禅を組むのは武士らしい。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>鎌倉時代の建築物や彫刻、文学作品などを通して、鎌倉時代の文化は力強く、武士の気風をよく表した特色があることを理解していると共に、鎌倉仏教の教えから、その特徴と人々に広まった理由を理解している。</p> <p>知・技＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇念仏、題目の音源資料 ◇金剛力士像 ◇新しい仏教の教え ◇鎌倉時代の仏教の内容と特色 ◇年表 年表を通して布教の時期と戦乱、天災、元寇の時期と一致していることに気付かせ、自分の意見をノートに書けるようにする。</p> <p>◇念仏、題目の音源資料 ◇金剛力士像 ◇新しい仏教の教え ◇鎌倉時代の仏教の内容と特色 ◇年表 年表を通して布教の時期と戦乱、天災、元寇の時期と一致していることに気付かせ、自分の意見をノートに書けるようにする。</p> <p>武士の心のより所として広まった新しい仏教の教えは、当時、争いや自然災害、飢饉に苦しむ多くの人々の心の支えとなった。鎌倉時代には、武士や民衆の力が伸びてきて、平安文化のような「華やかさ」ではなく「素朴だが力強い」文化が栄えた。この後、武士の支配する世の中がどのように変化していくか見てみたい。</p>